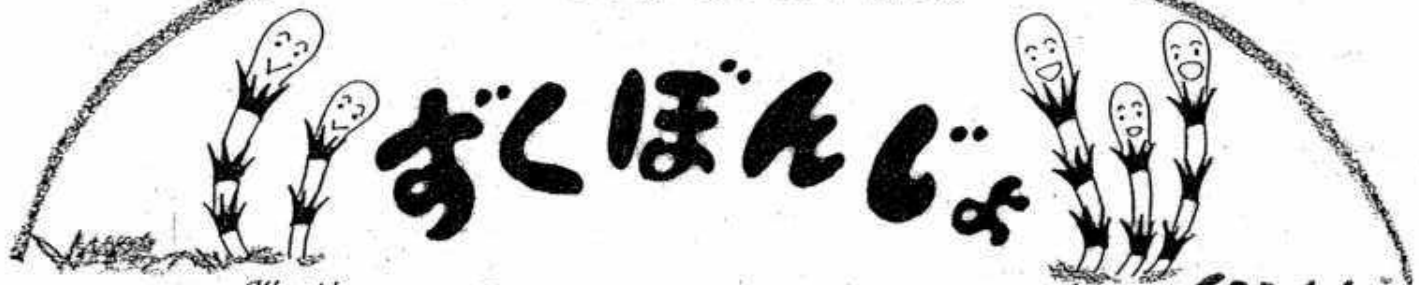


花には太陽を 子には平和を



# ずしぼんじゅ

発行第252回 R5.12.11 広報委員会 小金原保育の会 幼児教室

くるみえん

## 松戸市長 本郷谷健次氏 くるみえん 来訪!!

11月14日 子どもたちが「元気にお外で遊ぶ」あた  
たかい秋の日 松戸市長 本郷谷氏が くるみえんを  
見学した来てくれた「さいました。」

主任の有藤先生が 各部屋・お庭を回りながら  
日々の活動 くるみえんが 子どもたちの育ちにどのよう  
に寄り添っているのか 市長にお伝えしました。

「例えに」お庭では お山の斜面でイボが金段えら  
れて丈夫にたつことやお砂場やお庭で使った



道具は自分であと片末をさせていることで「自分で出来るかをつづ  
けていることなど」お話ししたそうです。

市長は「いいね、いいね」とお褒めをうけてくれたそう。

この日は母たちの釜戸でご飯を炊く(保育体馬舎の白で市長や市役  
所の方にも炊いたご飯をつくつてお礼をいって試食していただき  
母たちも市長とお話しをみること ことができました。

市長は「くるみえんは保育者と親が一緒に子どもを育  
っているのがいいね」とお褒めしてくださり、くるみえんの  
保育がいちかわたなまと思いました。

市役所の方も子どもたちの様子を見学してはるとま、水をかけ  
られてしまっても走って遊ぶようになって「自由だなま」と  
お褒めをうけていただきました。

これから松戸市に「ゆかり」のたき台からくるみえんは活動して  
いきます。



市長 本郷谷さんは「子どもが小屋について 子どもたちが  
お話を聞いてお話ししたそう。

くるみえんは2025年で50周年を迎えます\*

11月22日「50周年を考える会」が行なわれました。

### 50周年★ 実行委員会

- 50周年のアイコンを作りたい!!  
くるみえんの生みの親 茂呂 かつらさんにお願いしたと30トを  
いただきました。いくつか案をたてる予定です。楽しみですね
- 坂の上の看板を新しくしたい!!  
50周年を機に耐久性があるものにした!!  
費用がかかるので検討中です。

次回は「ずしぼんじゅ」  
と「例え」の写真を  
資料が揃った50周年を  
振り返り作りおしなす予定です

「なたでも参加  
できます!!」

次回は 1/17 (水)  
9:30 ~ 2階にて

第18回 森のようちえん in千葉 2023 11/3 金 祝 4±.5日

全国交流フォーラム

森のようちえん

毛のうにんじん

私たちの内なる自然が響きあう

分科会 32講座

交流会

マルシェ

キャズキャン

森のようちえん体験

託児

特別講演 福岡伸一氏 11/3(金) 13:30~14:30

特別講演 四井真治氏 11/3(金) 14:45~15:45

主催 福岡伸一氏 × 四井真治氏 11/3(金) 14:45~15:45

# 研修報告特集

## 森のようちえん 全国交流フォーラム

各分科会については下記の一覧表をご参照ください。

A-2 森のようちえんって? A-6 森のようちえん95園と一般園との比較がわかった!

B-1 教育の革新(小中高校学習から) 認知能力を育てる(関わり方) C-2 福岡生命輪(実践) 実践から学ぶ

B-4 ムリがある自然保育の輪・自治体による支援の可能性 B-5 環境と命(命と自然) 命と自然

C-3 年らなまきソノ! 自然体験をもちと繋がって 命と自然のつながり

以上が 今回の 参加の 要約

分科会	講師	内容
1	福岡伸一	対談・自然保育の本を語る
2	森のようちえんって?	森のようちえんって?
3	認定こども園で学んだこととそれ以外のもの	認定こども園で学んだこととそれ以外のもの
4	フレンド教育との対照で「保育」後の学びを学ぼう!	フレンド教育との対照で「保育」後の学びを学ぼう!
5	豊かな心を持つ一歩(プログラム)から	豊かな心を持つ一歩(プログラム)から
6	森のようちえんが園と一般園との比較がわかった!	森のようちえんが園と一般園との比較がわかった!
7	森山つたから(映画上映のみ)	森山つたから(映画上映のみ)
8	教育の革新は体験学習から	教育の革新は体験学習から
9	森のようちえんは園の学びの場作り	森のようちえんは園の学びの場作り
10	カイコのまのから命を紡いでみよう!	カイコのまのから命を紡いでみよう!
11	広げろ広げろ。自然保育の輪・自治体による支援の可能性	広げろ広げろ。自然保育の輪・自治体による支援の可能性
12	環境と命(命と自然)	環境と命(命と自然)
13	森山つたから(映画上映のみ)	森山つたから(映画上映のみ)
14	子どもという自然と生きる	子どもという自然と生きる
15	園生と命とつながる	園生と命とつながる
16	知らなまきソノ! 自然体験をもっと豊かにする(発達)の経験	知らなまきソノ! 自然体験をもっと豊かにする(発達)の経験
17	うたおう・あそぼうからつた	うたおう・あそぼうからつた
18	森のようちえんと関わるあなたの「習慣」もがたりをつくらう	森のようちえんと関わるあなたの「習慣」もがたりをつくらう
19	もう一度、子どもたちを取り巻く土と木と空を学ぼう	もう一度、子どもたちを取り巻く土と木と空を学ぼう
20	森山つたから(映画上映のみ)	森山つたから(映画上映のみ)
21	「ときどき」森のようちえん」の魅力発信センター	「ときどき」森のようちえん」の魅力発信センター

フォーラム実行委員 事務局専従 武中悦子

初日 基調講演・特別講演 対談への参加 ひばりくみ 森 草

私は今年の1月28日(日)四街道での実行委員会から参加しました。千葉県内の各森のようちえんやこども園、保育園が参加している実行委員さんたちのエネルギーに、終始圧倒されるばかりでした。

参加した分科会は「ムリがある。自然保育の輪・自治体による支援の可能性 ~千葉のこから、長野のこからで~」千葉県から、制度の概要と申請から認証の経緯等説明。令和5年度(10~)は76園体が認証。都市部の申請が多かった。東部にも宣伝していきたい。

長野県から「信州自然保育認証制度」通知「信州やまほいく認証制度」は9年前に72園で始まり令和5年度は約300園にのびた。ほとんど公立保育園。

- 千葉県の名称に「環境」が入っているのは、保育は環境を通して行われることとSDGsにも通じるから。(千葉県も長野県も)
- 他の各部署と連携し、検討会と現場の人や有識者と話し合、て立ち上げた。どちらも普及、研修、活動支援をしていく。
- 不登校・フリースクール等も認知され、幼児期の体験、生きる力の育成の観点から小学校との連携は重要と考え、更に取り組んでいく。

各県の担当者から以上のおな説明をした後、千葉県のある認可外保育施設の保育者から「公的補助がない園は運営が厳しい。認証されたからには認可園と公平な見直し支援をほしい。」という意見が出て、まさにその通り!!と感心しました。それについての回答などはありませんでした。

長野県ではどのような支援や補助金制度があるのか聞きたかったところですが、長野県の担当者は行政に詳しくないようで残念でした。

武中さん、実行委員として会場へ前乗りする泊4日!! たいんにお疲れさまでした!!!

B-X 分科会

ポロポロ陽気... 青空の下で集合写真 撮影は清水先生です



分科会 (A-2) 「森のようちえん、て？」  
 保育者 会田篤子

講師の方は北海道苫小牧NPO法人「いばり自然学校」の代表を  
 されている上田 融 氏で、「ようちえんフォーラム」には初回から携わて  
 いる方でした。

グループ毎での自己紹介では、学生の方森のようちえん運営をしいだ  
 今まさに森のようちえんを立ち上げようとしている方等、様々な方たちの  
 経験談や置かれている環境などを聞くことが出来ました。  
 その後には、グループ毎に「自然体験と自然対そび」から連想できる物  
 を表にして書き出していきました。例えば「海」と書いたら次に「砂浜」  
 貝→波→波乗りのように自分が思いついたことを書き上げていくので  
 作業をすらすらと進め、くみえんならどんなことか出来るかな？  
 これは出来るけどこれは無理、でも別な楽しみがあるなと。たとえ山  
 や川、海などなくても、自分が下が住む環境の中で、いかにして  
 自然を見つけて楽し、人も子どもも五感を研ぎ澄まし、ゆわくドキキ  
 するような経験を毎日出来るのが「森のようちえん」くみえんも毎日  
 繰り返らなければならない。

分科会 (B-1) 「教育の革新は体験学習から」

〈講師〉学校法人「きのくに」の村、創立者 堀真一郎氏  
 保育者 川 銘 智子

堀先生は大阪府立大学時代に教育学部で学び、子どものための遊び  
 場を始めました。そこでの遊びは身近に於けるもの(いわゆる雑材)を使っ  
 ておもちゃづくりが中心でした。少しだけおかしな遊びを子どもが「やってみよう」と  
 思ふような課題を与え、材料や必要な道具のみ用意し、子ども自身が考え  
 作り上げるもので、大人は一切作り方を教えることはしない、というものでした。  
 一、従来の学校での授業は、先生が「知識」を伝達し計画通りに進めていく  
 画一的な教授法が行なわれていました。又、子どもの生活についての調査から  
 「子どもたちの遊びへの意欲を失いつつある」という事実や学校での最も楽しい  
 は授業と答える子があまりに少ないという事実を受け「新しい学校を  
 つくる会」を1984年に発足させるのでした。「きのくに子ども村」は、感情面  
 でも知的にも人間関係でも自由な子どもへの成長の手助けをすることを教育  
 の目標に掲げています。例えば広大な敷地の高台に行ける道を作りた  
 いという子どもたちの発想から道づくりが始まります。安全のための柵づくりや、バ  
 ーrier止めなど土木工事は全て子ども自身が考え、材料を運び工具を使って作り  
 上げます。道づくりから発展し、江戸時代の五街道やローマ帝国時代の  
 街道にまで及んでいき、学習要領に沿って先生が一方的に知識を  
 与えるのではなく、子どもの知的好奇心や探求心を満たすために実践し、  
 体験して獲得していく教育は不可欠だと感じました。ここで「学んだことは  
 本物の知識、生きていくための知識である」と感じました。

分科会 (C-2) 「福岡生命論と実践を  
 どう考えるのか？」

〈講師〉大妻女子大学 保健士 保健太 氏  
 和光保育園 鈴木秀弘 氏  
 杜のこども園 坂田 龍 氏  
 保育者 斎藤 三恵子

福岡生命論を理解することに難しい上に「生命」の次元  
 で保育と向き合おうと考えることは、とても難しくなりました。  
 「人間は壊す(分解)ことを怖れ、保存(合成)したがる」  
 「同じ四季のくり返しだとマンネリ化、何か起こるのでは  
 不安定、その塩梅」「個も尊重しつつ受ける」「日々の保育で」  
 まさに考えること。「分解と合成を繰り返すことを怖れない」  
 「子どもは環境に開かれている」一分解と合成をくり返す自然環境の中で  
 子どもは完成や達成を第一とせず、自ら考え行動し感じる大切さ。「合成  
 とは多様なものが→にならば秩序への力、分解とは→のものが多様化する  
 混沌への力」「コスモスとカオス」そして和光保育園の園庭を見渡した  
 場所から撮影した保育動画は、まさにくみえんを見ているようにおもわ  
 った。まるでエネルギーに充ちあふれた星たちが、それぞれの軌道を描  
 いて集まる小宇宙。  
 個々々々つながりながら生きる活き活きとした姿をこのからも作っ  
 ていきたい。生命力を感じる保育を皆さんと共に感じていきたいと  
 思いました。



先生たちの  
 電車の中の1コマ  
 何が、そんなに  
 楽しいのか？

分科会 (A-6) 「森のようちえん95園と一般園との比較で  
 分かった「認知能力」も育つ関わり」

〈講師〉芦屋大学 臨床教育部 児童教育学科 大谷 彰子 氏  
 保育者 清水 陽子

「自然の中で育つものを見るようにしよう」そこからアンケートをとった結果や、大谷  
 先生ご自身が森のようちえんに定期的に通り体験したことを交えてのお話で  
 した。「森のようちえんフォーラムだからだろうか」そう思ってしまうほど、アンケートの結果では  
 森のようちえんのような「子どもが主人公の“遊びから学ぶ”保育」を経験している子  
 もは非認知能力が高いという結果でした。どんなことも自信を持って取り組みたい  
 うまく行かなくても工夫して達成しようとして、自分か何をしたいか言えたり、困ったら助  
 けを求められたり、非認知能力といったら、と聖書い言葉どおし、毎日くみえん  
 で生活している子どもたちの姿です。夢中で遊び込むという経験がこれから生きて  
 いく上で最も大切なものを育てているという点で、数字で示された結果でした。  
 そしてこの遊び込む経験が「学びに向かう力」も育てているのです。それと、保護者  
 自身の成長発育も圧倒的に高いという結果でした。



分科会 (B-5) 「環境と創造と芸術家や子供」

〈講師〉(社)東香会(社)の園保育園  
 齋藤 祐良 氏  
 (株)トノワン  
 トクマレジュゴ氏  
 保育者 大木 由紀子

ミュージシャンのトクマルさん、それを芸術だと感じられるように「女唄」  
 の理解というものが芸術の重要なポイントになると。ジャン・セジ作曲「4:33」  
 の一部分を聞き、無音の世界へ。音が無いからこそ五感が感じる時間だった。  
 子どもは発見が得意、世界をよくみれば「聴けよ、聞けよ、さわれば」  
 どんな環境でも見出し出すことができる。なぜ自然が良いか、それは自ら  
 少しずつ少しずつ変化が起きやすいためである。自然とはオープンエンド(明  
 確なゴールのない、自由で創造的な遊び)かつ動的で興味関心をくすぐる  
 ものだからという熱い語を聞き、くみえんの小さな芸術家たちの夢を思い  
 浮かべていました。  
 音楽家であり僧侶の齋藤さんは、何枚かの写真をみせて、何か見えるか、どう  
 感じていかと問います。私たちは信じているものを言葉にしていきます。「なんじゆ  
 ニソレ！」と感じ、そこから言葉が紡がれ言葉が使われて文化になり、夕陽の  
 実感を覚えられる様になっていく。Sense of Wonder です。  
 皆で裸足になって部屋の中をさわたり、たふし、ソウイ、外へ出ると10分程  
 歩きまわりました。始まる程度からに動いていました。足の裏、手触り、大層甲自然  
 公園の夕日など、ゆくりと感覚的世界に入り込んでいきました。

何かを感じる、変化していくなど、子どもたちと共に過ごす保育の中に  
 同じようなことがあるなと思いました。その環境を継続して  
 いきます。

分科会 (C-3) 「知らなきゃソッ！自然体験を  
 もっと豊かにする「発達のリバース」

〈講師〉発達理解のアドバイザー、iあたまのこ 北原 辰也 氏  
 保育者 鈴木 知加

児童福祉施設で働いていた経験を基に、発達に  
 ついて学び、現在は日常生活に困難を感じる子どもや  
 大人のサポート活動をしている方です。北原氏によると、「特に  
 生まれつきの潜在能力を眠らせたまましていると様々なトラブルや生  
 づらさが生まれる。現代の便利な生活が(例えば)知らなく  
 よい、聴く)発達チャンスを阻んでいる。その能力を引き出す  
 運動と暮らしへのアプローチも提案したい。脳神経の仕組みと  
 発達の「リバース」の理解が鍵となる。7才までは自分の体を育てる時  
 大人が過剰に干渉することで脳と神経が萎縮したりという小さな失敗の  
 機会を奪うと自分の体の動きを脳にインプットすることができず、ボ  
 ヂカ育たない。脳神経の仕組みに沿った発達の「リバース」を形  
 すれば、勝手に能力は開花する」とのことでした。子どもが「知らず  
 知らず」に身につけていく体の動きに人生を左右する程の鍵が隠されて  
 いることに、改めて興味を覚えました。便利で快適な環境が子ども  
 の発達にとっては害となること。その対極にあるもの、やはり自然の中  
 での活動だということを確認する時間となりました。

# らんぞうかい



# 子もまたー!!



久しぶりに戻ってきた元のらんぞうかい!!

楽しかったかなー??

ももはちになるの1周年した!

うさぎ運動会したい!! (写真見せたい)

ひばり色んな人が出てくるのが面白い

去年は手紙でほめてくれたお母さん

うさぎ全部けいこお母さんありがとう

もも100%頑張った

ピン食い 20票	リール 8票	表現 あそび 5票	7/28 競技 4票	親子 競技 4票	全部 3票	玉入れ 3票	ピンポン 1票	その他 1票
----------	--------	-----------	------------	----------	-------	--------	---------	--------

素直な感想をあげてくれてくれてありがとう!!

もも高橋達成父

初めての運動会が少し心配していましたがちゃんと走り回って姿を見て(先生のお手を借りながらですが)よく頑張っているなと感じました。入園から半年でこうした事が出来る様になったのは我が子の成長をとても嬉しい思い胸がいっぱいになりました。競技が終わった後の子どもたちの表情がとても印象的で本当にみんの子たちがお健やかに成長しているなと思いました。来年の運動会ではもっと頑張った息子が見れるのを楽しみにします。保護者が参加できるといいですね!! 何かのレジャーも参加させて頂きたい。他の保護者の方々と交流ができて思い出に残る運動会になりました。子どもたちに自分の親が楽しむ姿活躍している姿を見てもらってほしいなと思います。是非お母さんやお父さん、保護者の皆さまお疲れ様でした! ありがとうございました!

## お店やさんごっこ

子どもたちも大人も楽しみにしていたお店やさんごっこ。年長さんの保護者は1人参加できると記者H行ってまいりました!!

お店やさんの日をおかえりまで我が娘は「しーしー」といって何を今作っているのか考えさせてくれました。私がびっくりしたのは「おべり台を使っぞ恐竜をつくる!!」と言ったこと。私には3人子どもがいて今までいろんなお店やさんを見してきましたが「おべり台」を使うなんて初!! どうぞ恐竜になるのかいっしょ想像して当日を待ちました。おかい!! おべり台のようになっているなぞ!! しかもおべり台だけでなく首長竜までいました! そしてこれを初のコナー「発掘!!」ビビビビの新聞紙の中にうまっている骨や宝石をちゃんとスコップを使って発掘させた。大人たちには「もも」「みずみ」「ひばりさん」が「お買い物」をしていいるのそのま見学しました。「わ!!」と流れた子、たぶんあったおににしたらいいの困っている子、みんなそれを「れ満喫してました。

### 記者Hの戦利品



最後に「おきくみずみ」が「お買い物」したの「おべり」自分の大作を買った子か「タタ」から「たよう」な... 交換ってつかったからとて受着か「女子」の「かな」と「ほこり」しました。

記者Hの戦利品は以下のとおり。我が子の「おべり」た「おきくみずみ」は

「あの子が」こんなおねいも「こんな」長く作れたんだ!! と感じ、感謝しました。

おきくみずみ ステーキ

おきくみずみ 24匹の「おべり」おきくみずみ

おきくみずみ 発掘した宝石をけいこ!! (全部の「おべり」)

おきくみずみ ひばりのネックレス

おきくみずみ 女の子が「おべり」した!!

おきくみずみ 1150の「おべり」

# 学習委員会

## ～根本先生と「おらべうた」の会～

(委員長:宮前) 今回の会を開いたきっかけをお話します。  
 夫の自身が、2人目の育児において『おらべうたに救われた!』からです。  
 1人目の時は、困った時の『必殺! You tube! and お菓子!』と言った具合。  
 しかし、子どもがおらべうたが大好きだと気づいた時から『必殺! おらべうた!』と、  
 になりました。どうして子どもがおらべうたが好きなのか?? (すみえんが おらべうたを)  
 通して、子どもたちに経緯を伝えたいことはなりました!! と知りたくなった。  
 1」と言う訳です。

### 参加した母たちの感想

鹿野さん  
 子どもの頃何気なく  
 近所の友達と遊んだ遊び歌。  
 おも、こおも、『おらべうた』だったのか!!  
 とみほんの話を聞いて思い出してみたり、大人に  
 なって手をつないで輪を作る機会も珍しく、少し  
 くすぐったいような気持ちを感じながら、根本先生の  
 指示にそんな恥ずかしさもなく、何処いやら、子どもたちが  
 心で音を覚えてくるおらべうたは、からだで感じ、  
 覚えリズム、シンプルな音程とリズムに乗って、日常の  
 中のモヤとある出来事も、楽しさを借増し、出来事も、  
 このリズムをからだに覚えさせるような、帰還、  
 自転車を漕ぐテンポにリズムを感じました。  
 「おらべうただけ」ではない、子どもを見つめ、  
 視点が、根本先生のお話のほかに、はたかさん、  
 あり、いつもセントになります。新米母に  
 とって、大きなお母さんのような安心感、  
 それだけでも、ほとした時間  
 でした。

モモ:文さん  
 一言で言うととても楽しかった  
 です。おらべうたって、唄うのと  
 体を使うのと両方揃って初めて  
 成立するのかなと思いました。  
 赤ちゃんの子守唄も唄うけれど、  
 胸をトントンしたり、抱っこしてゆら  
 ゆらしたり、必可動的なものが  
 付いてくる。昔から唄いつながり  
 てるおらべうたは、実際に自分  
 でも友達と手をつないで唄い  
 ながら遊んだものの方が良く  
 覚えているのでは?? と思いました。  
 根本先生のお話を聞いて、おらべ  
 うたはただのお遊びではなくて  
 成長に合わせたものになると  
 言うことがおわかりました。



親子のスキンシップ、友達や身近な  
 人とのコミュニケーションに役立つ  
 ものなんだなあというのが、実際に  
 おらべうたを本気でやる事で実感できた  
 のが、とても良かったです。  
 おもちゃがなくとも、子どもも大人も  
 一緒に遊べる、遊ぶことが出来る。  
 同じ目線になれ、そんなふうに  
 感じました。学習会後、実際に  
 子どもと一緒に、おらべうたをやってみると  
 とても面白いのが良く、もう1回もう1回!  
 と言っ、とても良い顔をして笑っていました。

モモ:高橋

## ～山岡さんを囲んで うちの子どもってどんな子?～

(委員長:宮前) 会では山岡さんのお子さんの話  
 から始まり、「うちの子がどんな子なのか。」  
 という質問をお母さんたち全員に答えられています。  
 今回は、子育てをする母同士で、誰かの発言を通して何か気づきを持ち、帰ってほしいという思いから  
 座談会の形にしました。お母さんたちからは「系図が」「めんどうがる」「よく食べる」「頑固」など、  
 子どもの内面というより、日々の日常で見せる言動の特徴が多く話されました。みんな子どもをよく観察  
 しているんだなと感じました。家で見せる様子とすみえんで見せる様子が違うなど、うちの子がどういう子なのか  
 よく分からないという声もありました。実際に「困っている」という声も上がり、それに対し、母同士考え、意見を  
 交わせた事は、この形にして良かった点です。お話を聞いて、夫が感じたこと、または分からないことが前提にあるという事、子どもの「複雑な内側」を  
 分かることよりも、子どもが「意に出している事」をよく見て聴いて「観察」し、子どもに今起きている事を吐き出す「認め」ることが大切だと思いました。  
 あるお母さんの発言「不安を細かく分解していくと親の不安」という話も印象的でした。大人は子どもの『今』に対し「心配」や「不安」を未来が  
 漠然と持ち続けている事が良くあると思いました。不安を分解する事で『本当の不安が何か、誰の不安か、余計な不安を削ぎ落としていくこと』が  
 大切と気づかせてもらえた言葉でした。山岡さんとの打ち合わせでは、山岡さんがお子さんの  
 キャラクターそのまま受け止めて、困った事含め、まるっと愛していると感じ、印象的  
 でした。子ども今を知り認め、起きている事に一緒に対処していく、その  
 繰り返し。親の期待が込められた『理想の未来』に向かっているより、子どもの  
 『今』を認めた先に繋がり、いくものが、未来の姿なんだと、思えたお話し会でした。

### 多様な生活って何だろう



### 参加した母の感想

モモ:上さん  
 子どもの困りごとを見つけ考えることが大切なんだなと  
 思いました。先の不安やまだ見えない未来の、困り事を中心に時  
 向けにしようと考えているうちに不安の種が大きくなってしま  
 い、とそんなようになっていってしまうのが、今、子どもが困って  
 何に困っているか、今、目を向けて子育てを楽しみたいと思いました。

ご参加ありがとうございました